

ガイドブック

 MÜNSTER
MARKETING

ミュンスター
魅惑的な伝統、
エキサイティングな
若さ



歩くたびに発見する驚きの数々。中世の城壁の中に噂の有名レストランがあったり、ウェストファリアの貴族邸宅に世界最大のピカソのグラフィック作品コレクションが所蔵されているのをご存知ですか。 Lambertikirche (ランベルティ教会)の塔でドイツ最後の塔の番人が角笛を吹いていると思えば、研究所・病院では学問の「灯台」ともいえる最先端の研究が行われています。ミュンスターでは、バロック建築の珠玉と現代建築が並立し、10年ごとに国際的アートのメッカとなる skulptur projekte münster (ミュンスター彫刻プロジェクト)の彫刻が60点立ち並びます。この町では、気持ちのよい伝統的なおもてなしと刺激的なクラブライフや昔の港地区にできた新しいお出かけスポットのシックなレストランとが当たり前のように共存しているのです。

威厳に満ちた歴史と若々しくオープンな国際性が一つになったエキサイティングな共存性こそがミュンスターの特色であり、魅力です。「ドイツの歴史的ハイライト」たるこの独特な雰囲気を是非ミュンスターへいらしてご自分で体験なさってください。



ミュンスター市史概要

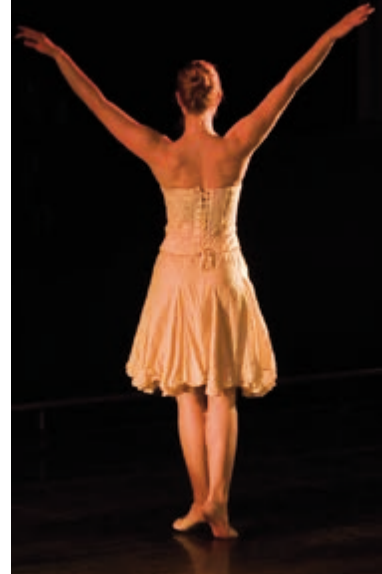
歴史的ハンザ都市の中心は、**Prinzipalmarkt** (プリンツィパルマルクト)にありました。中世の裕福な商人の邸宅や特徴的なアーケードのあるこのマルクトは、ドイツでもっとも美しいショッピング街のひとつと言われています。 **Lambertikirche**(ランベルティ教会)の塔には、三つの鉄かごが吊り下げられていますが、これは1530年代のいわゆる洗礼派運動でミュンスターを「新エルサレム」としたヤン・ファン・ライデンと同志達の流血事件の名残です。しかし街の中心はなんと言っても**歴史的市庁舎**です。1648年に三十年戦争を終結すべくミュンスターとオズナブリュックの間でウェストファリア条約が締結されたのがこの市庁舎で、今日でも旧参事官室の**Friedenssaal**(平和の広間)がヨーロッパ史のクライマックスたるこの出来事を記念しています。

すぐ隣のドーム広場には、700年ごろカール大帝がザクセンをキリスト教化したことを記念する **St.-Paulus-Dom** (聖パウロ大聖堂)と聖堂宝物館が1200年を超える長い歴史を物語っています。その他、ナチス独裁に勇敢に立ち向かい

「ミュンスターの獅子」と呼ばれたフォン・ガーレン枢機卿の記念碑もここにあります。

1787年創建のバロック宮殿は当時領主司教の邸宅でしたが、今はこの若い町の行政部、つまり学生数約5万人というドイツ最大規模の **Westfälische Wilhelms-Universität** (ウェストファリア・ヴィルヘルム大学)管理部が置かれています。

ミュンスターは第二次世界大戦でほぼ全壊してしまいましたが、市民の手で旧市街が忠実に昔どりに復興されました。今日では人口**30万人**の大都市となり、150万人の住民を抱える周辺地域の活気ある中心へと発展しました。今日のミュンスターはドイツでもっとも自転車にやさしい町という栄誉を受け、ヨーロッパ気候保護都市として三度表彰され、また世界でもっとも住みやすい町賞(2004年度国連 LivCom 賞)を受けるなど、国内外でよく話題に上っています。



芸術、文化、科学

「公共空間の芸術」があちこちに見られるミュンスターでは、美術館に行かなくても芸術に出会えます。1977年以降10年ごとに行われてきた「**skulptur projekte münster** (ミュンスター彫刻プロジェクト)」では、現代美術の世界的権威が集い、成立した作品の多くがミュンスターに残されてきました。そして10年ごとにまた新しい作品が加わっていくのです。

こうしたミュンスターの特徴の他、もちろん「室内芸術」も数多く、30以上の博物館では古代から現代に至る豊富な芸術作品を展示しています。たとえば **Kunstmuseum Pablo Picasso** (パブロ・ピカソ美術館)、**LWL-Museum für Kunst und Kultur** (州立LWL美術文化博物館)、貴重な逸品をそろえた **Museum für Lackkunst** (漆工芸博物館) などです。

美術上の最新の刺激をもたらすのはミュンスター美術アカデミーで、若い前衛芸術家が港広場の **Kunsthalle** (美術館) や市内のギャラリー、アトリエに作品を並べています。

動く芸術がお好みの方には、ミュンスターの演劇界が古典から実験的な演劇に至るまで変化に富んだ舞台をお見せします。**Theater Münster** (ミュンスター劇場) や **Pumpenhaus** (プンペンハウス) 劇場でのオペラやダンス劇なら、言葉なしでもお楽しみ

いただけます。**GOP-Variété** (GOPバリエテ劇場) の国際的アーティストもお薦めです。

そして音楽！市立交響楽団のコンサートでも合唱団の公演でも、音楽は言葉の壁を越えて国際理解を促します。それとも街のダンスクラブで有名なDJの音楽を楽しみましょうか。

もうお気づきのとおり、この街の躍動する若々しさの「秘密」は、荘厳たる歴史ではなく学術都市たる現代にあるのです。約**5万人**の学生が在籍する総合大学はドイツでも最大規模を誇り、ほかにも一流の応用科学大学等七つの大学があるので、ドイツの大都市の中でも学生の割合がもっとも高い町です。

おかげでミュンスターは常に新しい新鮮な頭脳に囲まれています。学生は、町とシティライフに生き生きとした刺激を与える若返りの泉のようなものでしょう。学生の出身が多様なように、学部・学科も多様です。大学の主要学部のほか、新たな重点学科も創設されました。「宗教と政治」を扱う学科、ナノバイオ技術、予防医学、医療技術などです。

ミュンスターが「美人の中の賢者」と呼ばれているのも偶然ではありません。

ミュンスターでのレジャー

ミュンスターの雰囲気を楽しむには自転車が一番です。ドイツで一番自転車にやさしい街として何度も表彰された市内では、楽しいサイクリングが楽しめます。290キロのサイクリングロードが町中を巡り、水に囲まれたお城がいくつも見られる郊外の美しいミュンスターランドへと続きます。サイクリングロードのほとんどはインラインスケートにも最適です。

十分にサイクリングを満喫した後は、是非ミュンスターの催し物カレンダーをご覧ください。お勧めイベントがいくつもあります。

毎週の市場—大聖堂のお膝元では、毎週水曜日と土曜日の午前7時から午後2時半まで、ヨーロッパで最も美しい市場の一つが開かれます。ミュンスターランドの農家や有機栽培店がオランダのチーズ・魚の商店やイタリアのデリカテッセンの店と並んで大聖堂の周りを飾ります。

Jazz-Festival (ジャズフェスティバル)—ミュンスターは、毎年一月に開催されるジャズフェスティバルの開催地としてジャズ音楽の世界有名です。フェスティバルにはジャズ界のトップクラスのミュージシャンが名を連ねています。

Send (ゼント)—毎年三回、春、夏、秋にお城の前で大規模なお祭りがあります。ミュンスターランド最大の移動遊園地(キルメス)には、毎年百万人以上のお客様が訪れます。金曜日夜の花火大会もお忘れなく。

国際ハンザ都市祝日—プリンツィパルマルクトは、ミュンスターの商人が市民やお客様をもてなす華やかなハンザの饗宴に、ぴったりの舞台です。

Turnier der Sieger (勝利者のトーナメント)—ミュンスターランドは馬の世界—その中央に位置するミュンスターのバロック宮殿は、国内外の乗馬選手が競う最高の場を提供しています。

Schauraum (ショールーム)—ミュンスターの博物館・ギャラリーフェスティバルは、芸術・文化・楽しみを独特のイベントに統合しています。約40箇所の博物館とギャラリーでは、深夜まで特別プログラムが催されています。



Münster Marathon (ミュンスターマラソン)—長距離選手にも大勢のアマチュアにも、このマラソン大会は大切な年中行事です。スポーツの大イベントであるだけではなく、マラソンの道筋の賑やかさでも有名です。

Münsterland Giro (ミュンスターランド・ジロ)—プロもアマも含めた自転車競技のハイライト—競技に並行してミュンスターランドで最大の野外祭も行われます。勝者を決めるゴールは、ミュンスター宮殿の前です。

1648年—平和都市ミュンスターは毎年秋に伝統的な「平和への対話」プロジェクトを開催しています。学術的・文化的催しとともに、「ウェストファリア平和の騎士」の歴史劇もお見逃しのないように。また隔年でウェストファリア平和賞が授与されます。

クリスマス市—毎年12月になると、ミュンスターの旧市街は伝統的なクリスマスの灯に輝きます。市内の五つのクリスマス市には遠近から数十万人の観光客が訪れます。

観光名所 – 見所

Rathaus und Friedenssaal(市庁舎と平和の広間)ーミュンスター市庁舎は14世紀半ばにできたゴシック風の拱廊で、50年代に特徴的な切妻屋根と共に昔どおりに再建されました。平和の広間では1648年にオランダ人とスペイン人が華々しく平和を誓い、ウェストファリア条約の一部として三十年戦争を終結させる役割を果たしました。

St.-Paulus-Dom(聖パウロ大聖堂)ー今日の大聖堂はほぼ、13世紀当時のままの姿です。絶対に見逃してはならないのは天体時計で、技術的にも美術的にも驚異の作品です。さらに金細工、織物芸術の傑作を集めた宝物館はヨーロッパでもっとも重要な博物館に数えられます。

St. Lamberti(聖ランベルティ教会)ー1375年から1450年の間に建てられたマルクト教会は、塔の先に三つの鉄かごが吊られています。そこには16世紀の半ばに洗礼派扇動者三人の遺体が入れられていたそうです。この教会の塔では今日でも塔の番人が毎晩角笛を吹いています。

Erbdrostenhof(エルブドロステンホーフ)ーバロック建築家ヨーハン・コンラート・シュラウンが1753-57年に建てたこの傑作は、**Clemenskirche**(クレメンス教会)や**Dominikanerkirche**(ドミニコ派教会)とともにザルツ通りの「バロックアイランド」を形成しています。

Kiepenkerl(キーペンケルル)ーこれはミュンスター地方の典型的な行商人の姿です。青い上着に赤いマフラー、帽子にストック、パイプを咥えて、田舎から都会へ商品や情報を運んだものでした。



Schloss und Botanischer Garten(城と植物園)ー豪華な彫像が正面を飾る旧領主司教邸は、1767-1787年にJ.C.シュラウンが三つの翼を持つ建築群として建設したものです。本邸左には、見事な木々の並ぶ城庭園へ続く小さな門があり、後部は200年以上の歴史を誇る大学付属植物園となっています。

Promenade(プロムナード)ー かつて街の城壁が聳えていたところは、旧市街を囲む緑化ゾーンとなりました。菩提樹の並木道が続くPromenade(プロムナード)は自動車乗り入れ禁止で、歩行者と自転車の主要な交通路となっています。

Rüschhaus(リュッシュハウス)ー1745年から1748年にJ.C. シュラウンが家族の別荘として建設したもので、後にアネッテ・フォン・ドロステ・ヒュルスホーフの住居として有名になりました。水堀のあるバロック風庭園は昔の図面に従って再建されたものです。

一見に値する建築物はゴシックやバロックの建築文化だけではなく、現代建築にも面白いものがあります。例を挙げましょう：



市立劇場—いくつかの建物が絡み合ったような建築(グイルマン、フォン・ハウゼン、ラーフェ、ルーナウ)は、1956年に劇場建築の「自由をもたらす雷鳴」として大いに喝采を浴びました。

市立図書館—1993年完成の独特の二重建築(ボレス+ウィルソン)と並んで同じく巧妙で見事なアングルと道を織り成す建物が登場しました。

司教区図書館—2005年完成の三部からなる建物(マックス・ドゥードラー)は、そのシャープな輪郭が印象的なだけではなく、すぐ近くの歴史的なユーバーバッサー教会とも美しく調和しています。

NRW.Bank(NRW銀行)—ミュンスターの象徴のごとく緊張感と瀟洒の中に新旧が一つになったこの建物(アイスフェルト・エンゲル)は、2010年に州とNRW建築家協会により州の「模範的建物」に加えられました。

Stubengasse/Hanse-Carré(シュトウーベンガッセ / ハンゼ・カレ)—中心街に残っていた最後の戦争の瓦礫が新装改築され(フリツェン、ミュラー・ギーベラー、カスパー、グイルマン、クレージング)は、2010年度のドイツ都市建築賞に輝きました。

博物館

LWL-Museum für Kunst und Kultur(LWL美術・文化博物館)—特見に値するのは中世初期の絵画と彫像、ステンドラス、後期ゴシックのウェストファリアの陶磁器です。近代の部分には、ドイツ印象派から国際的なアヴァンギャルトまでの作品が展示されています。

Stadtmuseum(市立博物館)—デパートを改築して建てられたこの博物館には、ミュンスター市の成立期から現在に至るまでの歴史や文化史が大きく展示されています。

Kunstmuseum Pablo Picasso(パブロ・ピカソ美術館)—Königsstraße(ケーニヒ通り)の旧貴族邸宅は2000年以来パブロ・ピカソのグラフィック作品を集めた世界最初で唯一の博物館となっています。常設展示の他、多様な特別展示を通じてピカソの生涯と作品および同時代人の作品を紹介しています。

Museum für Lackkunst(漆工芸博物館)—東アジアの最高級の漆器、インド・ペルシアのイスラム芸術の漆器、バロック・ロココ時代のヨーロッパの選り抜きの漆器職人の作品が見られます。



ショッピング& お出かけライフ

アー湖の四つのアトラクションー**Aasee**(アー湖)だけでも散歩やジョギング、水上スポーツに人気のある近郊保養地ですが、湖の北岸にはアトラクションが四つもあって、遠近の観光客を集めています。

Allwetterzoo(全天候型動物園)では 300種類3000匹の動物が見られます。

この中には2002年に開設された **Westfälisches Pferde-museum**(ウェストファリア乗馬博物館)もあります。

恐竜ファン、天文学・自然愛好家なら子供も大人、世界最高鮮度のデジタル画面を持つ **LWL-Museum für Naturkunde**(LWL自然博物館)と大水族館がおすすめです。

四番目のアトラクションは **Mühlenhof-Freilichtmuseum**(ミューレンホーフ野外博物館)で、古いボック風車、水堀に囲まれた1720年建造の瀟洒なグレフテンホーフ、鍛冶屋や古い店舗などミュンスター地方の昔の村生活が再現されています。

洗練された美しいモード、エレガントなデザイン、上品なアクセサリ、伝統的な宝飾品、古美術などミュンスターの歴史的旧市街は、**Prinzipalmarkt**(プリンツィパルマルクト)や**Salz- und Ludgeristraße**(ザルツ通りとルドゲリ通り)の歩行者天国でのショッピングへと誘います。ミュンスターのアーケード商店街や、**Hansecarré**(ハンザカレ)のある**Stubengasse**(シュトゥーベンガッセ)は、若くて新しいハイライトの一つで、ここの買い物は飛び切り楽しく、路上カフェでパノラマを楽しんだり、典型的なウェストファリアの居酒屋で寛いだり、快適なひと時を過ごせます。

ミュンスターには900軒以上のレストランや居酒屋、バーがあるので、きっとお好みのものが見つかるでしょう。特徴的なのは伝統的學生用居酒屋もある旧市街の**Kuhviertel**(クーフィアテル)です。ドルトムント・エムス運河畔のミュンスターの港**Kreativkai**(クレアティーフカイ)は、新しい名所に発展しました。河畔の魅惑的な景観を求めてやってきたのは出版社やアーティスト、広告エージェンツばかりではありません。こだわりのレストランや映画館、ディスコ、劇場も開場しました。



EUROPEAN
HERITAGE LABEL



*Münster and Osnabrück –
Sites of the Peace of Westphalia*

連絡先のご案内

しかし正直なところ： ミュンスターの文化は活気に溢れて瞬時に変わるので、エキサイティングな催しやイベントのすべてをここに予告するわけにはいきません。最新催し物情報は、直接「ミュンスタープロ」までお問い合わせください！

バリアフリーのミュンスター散策

身体の不自由な方のための旅行ガイドは、ミュンスター観光案内所および下記ウェブサイトでご覧いただけます。

www.tourismus.muenster.de と <http://komm.muenster.org>

ミュンスター・マーケティング
(Münster-Marketing)、案内係：

Heinrich-Brüning-Straße 9

電話 0049(0)251 492-2710、ファックス: 0049(0)251 492-7743

E-Mail: info@stadt-muenster.de

旧市庁舎内のインフォメーション：

Prinzipalmarkt 10

電話 0049(0)251 492-27 24

E-Mail: friedenssaal@stadt-muenster.de

www.tourismus.muenster.de

奥付

Münster Marketing | 文/デザイン: Lütke Fahle Seifert AGD | 写真: Stephanie Alker, Ralf Emmerich, Brigitte Kappenberg, Kunstmuseum Pablo Picasso, David Lederer, Olaf Mahlstedt, Tilman Roßmöller, Thomasz Samek, Karolin Seinsche, Dietmar Wirlitsch | 翻訳: Sprachschatz